

言葉の瓦版

第 10 号

編集：適寿リハビリテーション病院

言語療法室

発行：平成24年5月16日

摂食・嚥下障害とは

今回から「摂食・嚥下障害」についてお届けします。

物を見て食べ物だとわかって、口に入れて飲み込むまでの一連の流れのことを「摂食・嚥下(せっしょく・えんげ)」といいます。

この摂食・嚥下がスムーズに行われてこそ、私たちは安全に「食べる」楽しみを味わうことができます。

この流れのどこかに不都合が生じ、スムーズに飲み込めなくなったり、ムセたりすることを「摂食・嚥下障害」といいます。

言語聴覚士は「摂食・嚥下」がスムーズにできる条件を考え、実際に「食べる訓練」も行います。

第10号では、「摂食・嚥下」という行為はどのような流れで行われるのかを一緒に考えていきましょう。

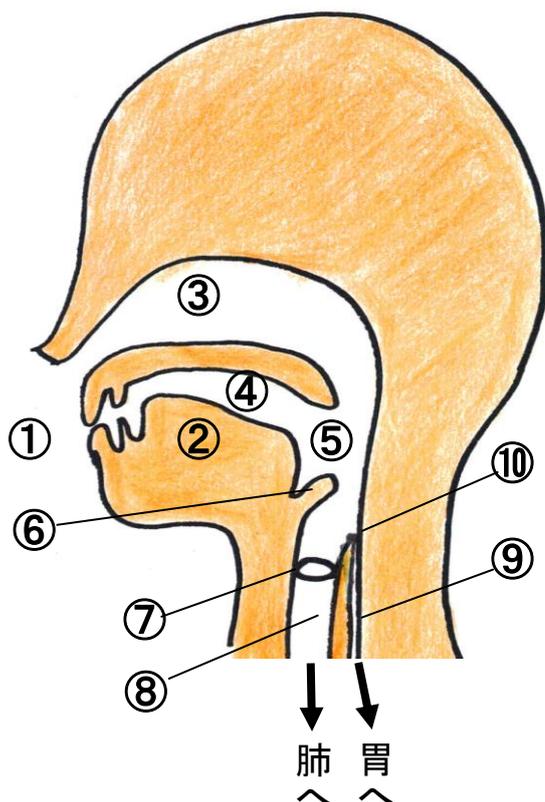
©MPC



私達が食事をする際には、食べ物を箸やスプーンなどを使って口元に運び、口腔の中に取り入れ、よく噛んだ後に飲み込みます(嚥下)。飲み込まれた食べ物は咽頭を經由して食道に入り、胃へ運ばれていきます。

この「食べる(摂食・嚥下)」という行為を理解するためには人間の体の構造を理解する必要があります。

まずは、飲み込みに関係する場所の名称を確認していきましょう。

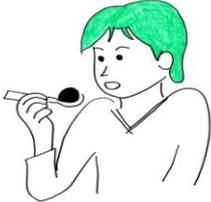
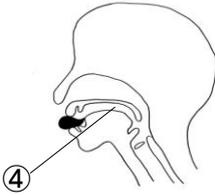
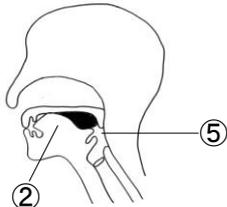
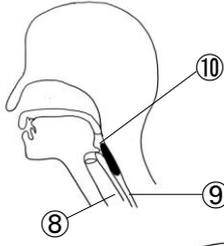


- ①口唇 (こうしん)
- ②舌 (ぜつ)
- ③鼻腔 (びくう)
- ④口腔 (こうくう)
- ⑤咽頭 (いんとう)
- ⑥喉頭蓋 (こうとうがい)
- ⑦声帯 (せいたい)
- ⑧気管 (きかん)
- ⑨食道 (しょくどう)
- ⑩食道入口部 (しょくどうにゆうこうぶ)

聞きなれない言葉も多いと思いますが、
これらがどのように動き、摂食・嚥下に
関わっていくのか次のページで

見ていきましょう。

「摂食・嚥下」がスムーズに行われてこそ、私たちは「食べる」楽しみを味わうことができます。
「摂食・嚥下」する、すなわち「食べる」という行為は次のような流れで行われます。

	正常	問題のある場合
<p>せんこうき 先行期</p> <p>↓</p> <p>じゅんびき 準備期</p> <p>↓</p> <p>こうくうき 口腔期</p> <p>↓</p> <p>いんとうき 咽頭期</p> <p>↓</p> <p>しょくどうき 食道期</p>	<p>正常</p> <p>形や色を見ることや、においを嗅ぐことなどで食べ物と認識します。</p>  <p>食べ物をお口（④）に入れてよく噛み、飲み込みやすい状態にします。（食塊形成）</p>  <p>食塊を、舌（②）と頬などの動きなどによって咽頭（⑤）へと送ります。</p>  <p>食塊が咽頭（⑤）へ送られてくると、鼻と気管（⑧）への通路が閉じ、食道入口部（⑩）が開き、食塊は食道（⑨）へ入ります。その時間はわずか0.5秒で、この行程を「嚥下反射」（ゴックンの瞬間）と言います。</p>  <p>そして、食道（⑨）の蠕動運動と重力などにより、胃まで送り込まれていきます。</p> <p><small>ぜんどううんどう</small></p>	<p>問題のある場合</p> <p>食べ物を見ても反応がない、スプーンなどで食べ物を近づけても口が開かない、ウトウトするなど。</p> <p>口の中に食べ物の残りがたまりやすい、噛む動作が起こりにくい、口を閉じる事ができないなど。</p> <p>舌（②）や頬の動きが悪くなり、食べ物が送り込めない。鼻に食べ物がまわるなど。</p> <p>ムセる、飲み込みに時間がかかる、食事中や食後に、ガラガラとした声に変わる。</p> <p>食べ物が気管（⑧）⇒肺の方へ流れ込んでしまう（誤嚥） <small>ごえん</small></p> <p>嘔吐を繰り返す、食後や夜間などに咳込むなど。</p>

私たちは、食べ物を食べ、飲み込むことを、1日のうちに何千回も行っています。そのうち1回でも失敗すると、肺炎などの問題を起しかねません。上の図のように、「摂食・嚥下」の流れには大変複雑な過程があるのです。次回（11号）では、摂食・嚥下障害の評価方法について特集します。お楽しみに！！